

## 最終報告書

### 背景

チャドは中央アフリカの国のひとつです。アフリカ大陸の中央に位置し、北緯7度～24度、東経13度～24度の範囲にあります。国土面積は128万4千平方キロメートル、アフリカで5番目に大きな国です。チャドは、北をリビア、東をスーダン、南を中央アフリカ共和国とカメルーン、西をナイジェリアとニジェールに囲まれており、最も近くにある港（ナイジェリアのポートハーコート）は国境から1700キロメートルも離れています。この国が抱えているたくさんの様々な課題は、ミレニアム開発目標達成の妨げとなっています。チャドは、アフリカのみならず世界の中でも最も貧しい国のひとつで、全人口の61.9パーセントが貧困ライン未満、55パーセントが1日1ドル未満の生活を送っています。2011年国連開発計画の人間開発指数では、187ヶ国中184番目にランク付けされました。

30年にわたる内戦によって、国の経済・社会発展にブレーキがかかり、もっとも弱い立場にある人々、特に女性や子どもたちに深刻な影響がでています。また、すでにポリオのような感染症や栄養不良によって過酷な状況に置かれているにも関わらず、2012年の洪水や近隣諸国の紛争が保健システムにさらなる圧力を与えています。感染症蔓延防止（ミレニアム開発目標6）、乳幼児死亡率の削減（ミレニアム開発目標4）のために、ユニセフは様々なレベルで保健システムの強化し、子どもたちの生存と発達のために持続可能な投資を行っています。主に、子どもの生存に大きなインパクトを与える技術、予防接種、小児病対策、小児栄養不良の予防と治療など総合的な治療を提供できる保健スタッフの人材確保と配置です。

### 活動目標



今回の活動は、チャドのサヘル地域にあるサービスが行き届いていない2地区（ラクとカネム）を支援することをねらいとし、およそ80万人の人々が恩恵を受けることになります。具体的には、救急医療隊員（医師の指示の下に業務を行う医療従事者）の人材確保、研修、配置、栄養・衛生物資の確保、栄養や衛生および子どものケアに関する日常生活において不可欠な習慣を促進することです。

### 活動結果



FNSチャリティキャンペーンを通じた多大なるご支援により、子どもの生存と発達のパッケージを37,142人の子どもと保護者に提供することができました。

#### a) 研修と能力向上(キャパシティー・ビルディング)

サヘル地域の栄養プログラムの規模拡大(2011-2012)に続いて、2013年には研修、キャパシティー・ビルディング、協力的な運営を通してケアの質向上が重点的に行われました。ユニセフは、保健省(MoH)を支援しており、サヘル地域の11地域すべてにトレーナーや保健員の研修を行いました。全体で保健省の地域スタッフリーダー(地区のチーフスタッフら)40人がトレーナー研修を受講しました。彼らの研修に続いて、約400カ所の保健所で働いている看護師438人の研修も支援できました。今回の活動で支援されている2地区では、80万人の子どもたちのために、153人(カネムでは117人、ラクでは36人)の看護師が研修を受けました。マイクゴールデン博士(急性栄養不良ジェネリックプラトコルのコミュニティ運営の第一人者)主導による深刻な急性栄養不良の合併症についての国全体の研修が2013年11月に開催されました。チャドの22の栄養不良患者ユニットに勤務している医師と看護師あわせて83人が参加しました。

#### b) 物資供給の範囲拡大

2013年、最も深刻な状態にある栄養不良の子どもたちに支援を届けるために、栄養不良の治療をおこなう地理的範囲の拡大を継続して行いました。栄養治療を提供している保健所の数は、2012年12月の424施設から2013年12月には511施設となり、およそ20パーセントも増加しました。カネムに90施設、ラクに62施設、計152の保健所をご支援いただきました。

ご支援によって、栄養物資や不可欠なジェネリック医薬品をチャドのサヘル地域にある食糧センターへタイムリーに調達・配布することが可能となりました。すぐに摂取可能な栄養補助食(RUTF)と必須医薬品をNjamenaからそれぞれの地域の保健所に輸送することができます。日本からの支援もあり、計15,000カートンもの栄養補助食(RUTF)を確保することができました。これは、2地区で必要なRUTFの35パーセントにあたります。これらの栄養物資の供給は37,142人の子どもに恩恵を与えます。ユニセフは地域の保健スタッフにその地域の物資を管理する委員会を立ち上げることを促しました。現在、これらの委員会は2地区で活動しており、保健所の備品輸送の発達とRUTEの不正使用を削減しています。

#### c) 日常生活において不可欠な習慣の促進

日常生活において不可欠な習慣の促進(KFP)は今回のご支援の中心となる要素です。保健省と実際に活動を行うチャド赤十字社のパートナーシップでは、499のコミュニティ保健スタッフ(CHWs)と村のボランティアの人々がKFPの訓練を受け、45地域(1,267の村をカバーしている)に配置されました。その保健スタッフたちが、コミュニティの意識喚起とコミュニティ・家事レベルの母乳育児・子どもの食事(IYCF)・衛生の普及活動を支えており、5歳未満の子どもと保護者125,772人に伝えました。子どもの食事でカギとなるメッセージは、より多くの人に届けるために食糧センターと地元のFMラジオを通じて広められました。宗教団体や地方公共団体も健康促進活動に参加しました。

## 学んだこと

- 急性栄養不良プログラム(CMAM)のコミュニティ運営の取り組みを保護者に伝えるのに最も効果的な手段だと証明されている地域密着型の栄養不良治療と並んで、家庭内習慣の周知もすでにサヘル地域のほとんどの地区で実施されています。
- CNNTA(保健省の栄養部門)と共同で実施された研修を地域の保健員を巻き込んで実施した結果、対象の研修生の90パーセントに及ぶ従事者が研修を受けることができました。

- 地域保健スタッフの代表者や現地NGO(CRO や BASE)および保健省が共同で計画し、栄養対策を行い、栄養状態の回復が顕著に見取れるようになりました。
- 栄養チームと保健省の協力で実現したあらゆる栄養対策は、政府主導を促すために重要でした。

## 今後の活動予定



今後、ユニセフは効果の大きい保健省周辺のキャパシティー・ビルディングに焦点を当てて支援活動を続ける予定です。そして、支援の質向上、範囲拡大、強化、予防などの栄養危機に対する貢献を継続して行います。近隣諸国の政情不安や洪水により、チャド南部はたびたび緊急事態が起こることから、ユニセフは、急性栄養不良プログラム(CMAM)のコミュニティ運営が必要とされている南部に普及活動をおこなっていきます。人々の行動の変化や微量栄養素不足の防止は重点的に行われる予定です。これらは、日本政府のような寛大なドナーからのさらなる資金提供を必要とします。

## 活動実施経費

No	科目	使用された費用\$
1	総合的な栄養プログラム	151,200.18
2	すぐに摂取可能な栄養補助食や必須医薬品の調達	48,782.24
3	日常生活において不可欠な習慣の促進	119,637.71
4	人道支援のサポート	119,505.22
5	活動費	42,720.60
	<b>合計</b>	<b>481,845.95</b>